



藤牧義夫《つき(『新版画』12号)》1934.4(発行)
神奈川県立近代美術館蔵

見どころ 1930-40年代の創作版画を

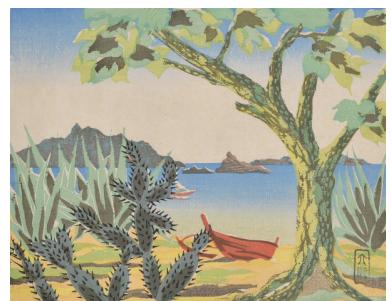
1930-40年代の日本にタイムスリップ
出品作品を通して



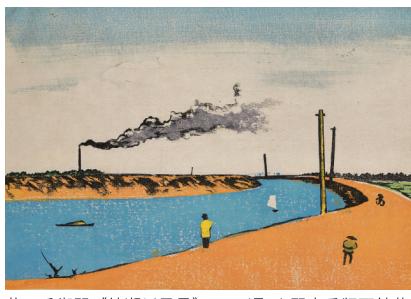
宇治山哲平《小田ノ池》1935 小野忠重版画館蔵



水船六洲《樹》1933 小野忠重版画館蔵



武藤六郎《無人島と赤きカノコ(小笠原島)》1935
町田市立国際版画美術館蔵



蓮田兵衛門《綾瀬川風景》1932頃 小野忠重版画館蔵



清水正博《酒場》1933 和歌山県立近代美術館蔵

見どころ
3
青年版画家たちは、
どのように超えようとしたか！

昭和初期にあたる1930年代の東京は関東大震災から復興し、新しい景観と映画やカフェなどの娯楽文化が流行する近代都市へと変貌を遂げています。その一方で、この年代は経済や文化面などへの国家の統制が強化され、戦時体制へと歩みが進んだ時代でした。

こうした時代に、1932年(昭和7)、小野忠重(1909-1990)や武藤六郎(1907-1995)ら20代はじめの青年たちが「新版画集団」を結成し、「版画の大衆化」を掲げて版画運動を開始します。この後グループは、活動の中で、現代版画には絵画的充実が必要だと実感し、1936年(昭和11)に一旦解散、小野や清水正博(1914-2011)らメンバーの一部が1937年(昭和12)に「造型版画協会」を結成して版画運動を継続・発展させました。

本展覧会では、「新版画集団」と「造型版画協会」のリーダーであった小野忠重の旧蔵品を中心とした約300点の作品によって、これらのグループによる版画運動の諸相を探ります。また、激動の1930-40年代という時代に版画に熱中した青年たちが、如何にこの時代を超えるとしたかを考えます。

本展は、明治の終わりに登場し、まだ30年にも満たなかった創作版画の、いわば「青春期」を振り返る機会にもなるでしょう。

見どころ 1930-40年代の創作版画を なんと約300点展示

関連イベント

◎講演会

原田光氏(無言館手伝い、元岩手県立美術館館長)
4月14日(日) 午後2時~3時30分
「1930年代日本の版画――小野忠重と藤牧義夫を中心に」

◎鼎談

三木哲夫氏(兵庫陶芸美術館館長)、西山純子氏(千葉市美術館学芸員)、滝沢恭司(当館学芸員、本展企画者)
4月28日(日) 午後2時~3時30分
「知られざる版画運動 新版画集団と造型版画協会の若き版画家と作品」

※両イベントとも、講堂にて、先着100名 要本展観覧券(半券可)



◎子ども講座 みてみてつくろう

展覧会を鑑賞し、キッチントリグラフという技法で版画をつくります。
杉浦幸子氏(武蔵野美術大学芸術文化学科教授)、制作指導・当館学芸員
3月30日(土) 午後1時30分~4時
対象/定員 小学3~6年生/16名
(事前申込制。募集期間2月14日正午~3月4日、受講料1,000円)
申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください。

◎学芸員によるギャラリートーク

3月17日(日)/4月21日(日) 各日午後2時~(45分程度)
企画展示室にて 要当日有効観覧券

◎プロムナード・コンサート

出演:塩谷遙氏(ピアノ)
4月27日(土) 第1部 午後1時~1時30分 / 第2部 午後3時~3時30分 各回30分程度
エントランスホールにて 参加無料 申込不要

無料シャトルバス

会期中の土・日・祝・シルバーデーは
無料シャトルバスを運行します。
詳細はHPでご確認ください。



同時
開催

特集展示(常設展示室・入場無料)
日本のグラフィック・デザイナーと版画
2024年3月13日(水)~5月19日(日)

小田急線・JR横浜線町田駅より徒歩15分



町田市立国際版画美術館
Machida City Museum of Graphic Arts

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 TEL 042-726-2771 <https://hanga-museum.jp/>
お問い合わせ 町田市役所代表電話 042-722-3111